

なんだか最近調子が悪い…それ、お薬のせいかも？

「薬剤起因性老年症候群」聞いたことがありますか？

ゆるっと薬剤師コラム_vol.08

「体がだるい」「夜中に何度も目が覚める」「なんとなく食欲がない」――。

「年のせいかな」と思っていないですか？

実はその不調、お薬の影響かもしれません。



「薬剤起因性老年症候群」とは？

高齢の方によく見られる「転びやすい」「ぼんやりする」「食欲がない」などの症状は、年齢や体力の低下だけでなく、薬によって引き起こされていることがあります。

薬は本来、病気を治したり症状を和らげたりするためのものですが、複数の薬を飲むことで、薬同士が影響し合っ副作用が出る場合があります。特に高齢の方は、薬が体に残りやすいため、少しの量でも影響が出る場合があります。

こんな症状が出たら「薬のせいかも？」

物忘れが急にひどくなった、ぼんやりする よく転ぶ、ふらつく、めまいがする、尿が出にくい、尿漏れが増えた 食欲がない、体がだるい、元気が出ない こうした変化が「薬を増やした」「新しい薬を飲み始めた」あとに出たら、一度お薬の影響を疑ってみることが大切です。



防ぐために役立つこと3点

① お薬手帳は1冊にまとめる

複数の病院にかかっている場合、手帳は1冊に。

薬の重複や飲み合わせのチェックがしやすくなります。

② 体調の変化は我慢せずに伝える

「眠れない」「ふらつく」など、気になる症状は医師や薬剤師に相談を。

いつから、どんなふうに困っているのかを伝えると、調整がしやすくなります。

③ 薬の整理を相談する

特に5種類以上薬を飲んでいる方は、一度見直しを。

昔の病気の薬が今は不要になっていることもあります。



大切なお願い

気になる症状があっても、自己判断で薬をやめないでください。

血圧・糖尿病・てんかんの薬など、急にやめると危険な薬があります。

「薬の影響があるかも」と感じたら、「薬の見直しを相談したい」と医師や薬剤師に伝えてみましょう。

気になることがあれば、当院スタッフにどうぞお気軽にご相談ください。

